

第 9 回

函館市・戸井町・恵山町・椴法華村・南茅部町合併協議会

会 議 録 概 要 版

(平成16年11月4日)

函館市・戸井町・恵山町・椴法華村・南茅部町合併協議会

第9回 函館市・戸井町・恵山町・椴法華村・南茅部町合併協議会会議録概要版

1. と き 平成16年11月4日(木曜日) 13:30～14:35

2. ところ ホテル函館ロイヤル

3. 出席者

(1) 会 長 函 館 市 長 井 上 博 司

(2) 副会長 戸 井 町 長 吉 澤 慶 昭 恵 山 町 長 工 藤 篤
椴 法 華 村 長 船 木 英 秀 南 茅 部 町 長 細 井 徹

(3) 出席委員 (34名)

(函館市)

西 尾 正 範
福 島 恭 二
岩 谷 正 信
小野沢 猛 史
佐 藤 幸 太 郎
山 鼻 節 郎

(戸井町)

伊 藤 修
吉 田 崇 仁
吉 田 悦 也
砂 子 賢 己
館 山 澄 子

(恵山町)

石 田 徹 也
斉 藤 明 男
二 木 進
藤 原 靖 孝
斉 藤 賢 三

(椴法華村)

大 津 廣
田 中 孝 司
中 市 敏 樹
佐々木 範 子

(南茅部町)

小 中 捷 弘
杉 林 幸 弘
樋 口 廣 文
関 根 弘
熊 谷 儀 一

(共通委員)

星 井 英 人
渡 部 正 一 郎

河 合 裕 秋

金 山 正 智

4. 説明員

函館市・戸井町・恵山町・椴法華村・南茅部町合併協議会事務局
事 務 局 長 近 江 茂 樹

会議に付した事件

(協議事項)

議案第 1号 平成16年度函館市・戸井町・恵山町・楸法華村・
南茅部町合併協議会補正予算について

午後1時30分 開会

会長 開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席を賜りまして、心から厚くお礼を申し上げます。

12月1日の5市町村の合併を目前に控え、本日が最後の合併協議会ということになります。委員の皆様におかれましては、昨年9月に合併協議会を設置をして以来、本日までの長きにわたり、熱心なご協議をいただき、副会長共々心から感謝を申し上げる次第でございます。

さて、5市町村の合併につきましては、本年4月に執り行いました合併協定調印式後、7月7日に北海道知事に対しまして合併の申請を行い、その後10月には北海道議会の議決をいただき、当地域の合併につきまして、北海道知事の決定処分がなされ、11月10日に総務大臣の官報告示がなされる予定でございます。

したがって、現段階におきまして、5市町村の合併は確定をしております、あとは合併期日でございます12月1日を迎えると、そういった状況になっております。

本日はそういった意味で締めくくりの協議会になりますが、これまでの委員の皆様のご支援、ご協力、そしてご努力に感謝を申し上げまして、開会に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いを申し上げます。

事務局 委員の交代報告

副会長に細井南茅部町長が就任。委員に小中南茅部町助役が就任。

会長 最初に、会議録署名委員の選任について、本日の署名委員は、楸法華村議会議員の中市委員をお願いをしたい。

それでは、協議に入りたい。

事務局

議案第1号 平成16年度函館市・戸井町・恵山町・楸法華村・南茅部町合併協議会補正予算について

事務局 協議会の11月30日解散までの管理運営に要する経費等の決算見込みに基づく、減額補正で、歳入歳出予算の総額をそれぞれ2,159万1,000円減額し、1,817万8,000円と定めている。

会長 何かご質問、ご意見があればご発言いただきたい。

〔「異議なし」の声あり〕

会長 議案第1号 平成16年度函館市・戸井町・恵山町・椴法華村・南茅部町合併協議会補正予算については、原案のとおり決定。

会長 報告事項に入ります。

事務局 合併協定調印式後の経過と今後の取り組みについて

本年4月23日の調印式後からの経過について報告。

5月6日 北海道から合併重点支援地域の指定を受けた。

5月13日 5市町村の首長協議を行い、4町村の特別職および教育長の身分の取扱いについて協議を行い、戸井町は町長、収入役、教育長、恵山町は町長、助役、椴法華村は村長、助役、南茅部町は町長、助役、教育長、以上の方は、合併後の参与とし、地域の振興や意見反映が適切に行われるための役割を担っていただき、あわせて支所長等の事務を取り扱うこととなっている。

戸井町助役および椴法華村教育長は、一般職として任用する。

なお、その後、南茅部町長および助役の交代があったので、改めて10月15日に協議を行い、新しい町長、助役が合併後の参与として就任し、支所長等の事務の取扱いを行うこととなっている。

6月10日から6月25日

5市町村の定例会で、「廃置分合の議案」、「財産処分の議案」、「議会の議員の特例に関する議案」、「地域審議会の設置に関する議案」の4件について、議決された。

7月7日 5市町村長より北海道知事に対しまして、廃置分合の申請書を提出

8月18日から8月30日

第8回合併協議会を書面会議という形で協議し、平成15年度決算、平成16年度補正予算の決定

10月8日 北海道議会において、戸井地域の合併議案議決

10月12日 北海道知事の決定処分

10月15日 北海道知事から総務大臣への届け出が提出

10月下旬から11月上旬

4町村向けの広報資料を作成し、4町村の全戸に配布

11月4日 合併協議会の開催

この後の予定

11月10日 総務大臣告示（予定）

11月中旬 5市町村の臨時議会で、合併後の条例議案や補正予算議案などが審議される予定。

また、協議会の廃止に関する議案もあり、11月30日の合併の前日をもって当協議会は解散することとなっている。

12月1日 合併の施行

合併記念式典を市民会館で開催する予定

会長 何かご質問等があれば、ご発言願いたい。

山鼻委員。

山鼻委員 今後の取り組みの中で、11月30日合併協議会の解散とあるが、また一堂に会して解散をするのか。

事務局 一堂に会しての協議会というのは本日が最後ということで、ご理解いただきたい。

山鼻委員 了解

事務局 事務局から、案内。

合併記念式典を12月1日、午前11時より市民会館の大ホールにおきまして執り行います。協議会の皆様におかれましては、ご案内のとおり、記念式典にご出席をいただきますようお願いいたします。

会長 今日は最後の協議会であるので、これまでの合併の協議、あるいはまた合併後のまちづくりに関して、委員から1人ずつ感想をいただきたい。

西尾委員 トップバッターが長ければかなり時間かかるから手短かにといわれておりますので、一言だけお礼も含めてご挨拶させていただきたいと思います。

ちょうど31年前に編入されたまちの職員でございました。今もう1カ月を切ったわけ

なのですが、3町1村の職員の気持ちと申しますか、期待と不安をよくわかるような気がします。函館市の側の人事担当者として、市の職員と町村の職員の差別、区別は一切しないと。これからいろいろな交流人事やっていくことになると思いますが、早く顔と名前を覚えて、いい人事をやって、いい市役所づくりをしていきたいと思っておりますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

福島委員 この合併の趣旨については、今さら申し上げるまでもないわけですが、こうした大変厳しい経済社会の中でのことでもありますから、自然発生的に将来のことを考えたときに、合併という選択肢をそれぞれが考え、自然発生的にこうした会合になって、今日を迎えたと思っております。

そういう点では、各都市の皆様方が胸襟を開いて、私どももそうでありまして、これまでの各町村の歴史や伝統、文化を尊重しながら、それぞれの立場を尊重し、そして住民の考え方をしっかりと踏まえて、この場で議論をされてきたことが、今日を迎えたものだと思っております。

それには当然、ただいまも話されましたけれども、都市の大小にかかわらず、皆さんの意見を真摯に受けとめて協議をした結果、このようにまとまったものと思っております、大変うれしく思う次第でありますと同時に、こうした皆さんが心を一つにして将来を考え、そして住民の福祉充実を考え、町の発展を考えてきたことが、今日を迎えたものと思っております。

とりわけ、私ども議員の立場から申し上げますと、大変皆さんを煩わした時期もございましたけれども、5市町村の議会の議長という立場から申し上げますと、十分議論はされてきたものの、将来それぞれの都市、それぞれの住民の考えたことが議論されたことがそのとおり反映されるのかどうなのか、これは住民の等しく考えておるところだと思っております。

そういうことなどを考えますと、やっぱり私ども函館市の議員は、各町村の歴史や文化、伝統、あるいは住民の気質等々は知るよしもないわけですから、そういう点から考えますときに、やっぱり議員の皆さんがその付託を受けておるわけですから、皆さんに参加をしていただいて、将来をしっかりと見据えた、そして住民の意見をしっかりと反映をさせて、合併してよかったなど、こう思われるような大函館にしていきたいものだと、こういう立場から、在任特例もたまたまございましたので、在任特例を受けさせていただいたところでございます。

そんなことで、大変皆様方にはご苦勞をおかけいたしましたし、また議員の皆さんにはご心配やら、ご不満もあったかと思っておりますけれども、皆さんのご理解のもとにこうして決着をすることができましたことを本当にうれしく思っております。

そんなことで、今後ともそういった住民の意思をしっかりと踏まえて、この函館の議会

の中で十分活かして、函館の発展のために、各町の発展のために、住民福祉の充実のために、全力を尽くして頑張りたいと思っております。

これまでの皆様方のご支援、ご協力に対しまして、心から感謝を申し上げて、一つの感想の一端とさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

岩谷委員 どうもご苦労さまでございます。

ここまで至ったのも皆様方がお互いに信頼し合ったということ、特に町名もなくする、ふるさとの名前を失うという4町村の皆様方がこらえることもたくさんあったと思いますが、おかげで統一することができた。いよいよこれから私どもの責任は重いぞという気持ちで全力尽くして、これからも信頼し合って頑張っていきたいと思っております。

どうもありがとうございました。

小野沢委員 これからは4町村の皆様と力を合わせて、新しいまちづくりに努めてまいりたいと考えておりますので、どうぞご指導、ご助言を賜りますようによろしくお願いいたします。

佐藤委員 12月1日に合併をし、4町村は函館市民となるわけでございますので、今後力を合わせて、市発展のために貢献したいと思っておりますので、ご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

山鼻委員 私の表札が函館市社会福祉協議会会長ということになっております。行政の合併がスムーズにいきましておかげで、去る9月9日に1市4町村の社協の合併協議会合併協定書の調印式をめでたく終わることができました。ありがとうございました。

その帰り際に、廊下の方で、後ろの方から、さあ、いよいよ函館市民だ、この一言がじんと耳に入りました。恐らく4町村の委員の人の発言であったと思っております。この一言、私にも覚えがございます。かつては亀田郡銭亀沢村の一住民でございました。あれから早いもので40年たちます。合併するという当時は希望もございましたが、不安もございました。今振り返ってみて、いよいよ函館市民になるのだという一言申し上げた委員の人の感情がわかるような気がいたします。振り返ってみて、懐かしい一言、そしてそういうふうなことを感じ取るときが必ずまいります。

どうぞ、行政、そして本日ご出席の委員の方々は、社会福祉協議会の運営には必ず参画していただける、助言をしていただける立場の方々でございます。合併してよかったと、このような住民の声を生で聞く日を楽しみにして頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくご指導のほどをお願い申し上げます、所信の一端といたします。

ありがとうございました。

伊藤委員 昨年9月に協議が始まりました当初は、先が長いなというふう感じておりましたけれども、今振り返りますと、大変早い時間の経過であったというふう感じております。

ほぼ予定どおり順調に協議が進みましたが皆さんの前向きな議論があったからだというふう感じております。時間が経過してもこの協議会が意義あるものであったというふうにいわれるよう、これからのまちづくりに努めてまいりたいと思っております。

どうぞ、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

吉田崇仁委員 振り返ってみますと、6月の第2回定例議会において合併関連の議案の議決が決定したときには、産みの苦しみといいますか、そのようなものを味わったような感じがいたします。

振り返ってみますと、それぞれの町村も100年を超す体系の中で育んできたというか、発展を続けてきたわけでありまして。今後も地域の特色、特性を活かしたまちづくりと、先ほどもお話しありましたけれども、合併してよかったと言われるような函館市にぜひなるように期待しておる次第でございます。

どうぞ、よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

吉田悦也委員 本当に合併してよかったと言われるような市に、そしてみんなが心配なく暮らせるようなまちにしたいと思っております。このようにご期待しているものであります。

大変この協議会の中では、皆様にお世話になりました。本当にありがとうございます。

砂子委員 平成に入ってから、道内第1号といわれております。新聞等を見ますと、破談になっておるところも多いようですが、そういう中では皆さんが協調の精神で前を見ての合併について進めておられる考えであろうと思います。

これからもいろいろお世話になりますけれど、ひとつよろしく願いします。

館山委員 私は戸井村というときに生まれまして、戸井町になったときに子供を育てまして、今度、函館市になったときに孫を育てるというそういう時期に、そしてこの協議会に参加できたことを誇りに思っております。

そして、これからも函館市になって、自分が何ができるかなと、少しでも役に立ちたいなと思っております。そして函館市でよかったなとみんなに喜んでもらえるように協力していきたいと思っております。

よろしく願いいたします。

石田委員 まずもって、皆さん、合併にそれぞれご尽力いただきまして、合併を12月

1日に迎えることとなります。本当に皆さんに感謝いたしたいと思います。

いろいろ今までご意見たくさん出ましたけれども、私ども函館市のこれから5市町村そろうって振興、発展、そういう部分でもって、いろいろ内容はあるでしょうけれども、発展に努めてまいりたいと思いますので、よろしく今後ともお願いいたしたいと思います。

齊藤明男委員 皆さんと重複する点もあろうかと思いますが、ご理解を賜りたいと思います。

道内市町村の合併第1号として、これからモデルケースになるように強く望むところでございます。

同時に、お互い旧市町村の枠組みを超えて、一日も早く函館市民として融合し、それぞれの地域の特性に応じた振興、発展を強く望みながら、これからもよろしくお願い申し上げたいと思います。

どうもありがとうございました。

二木委員 12月1日に合併ということで、迎えることができました。本当にうれしく思っております。

私からは、水産都市の名にふさわしい漁獲高、すなわち200億円を超える扱いにもなりますし、そういうことで今後水産業の限らない振興、発展を心から祈念をいたしたいと、こう思います。

最後になりますけれども、ここまで来れたのも函館市議会の皆様方の温かいご指導、ご理解のたまものでもあるということで感謝を申し上げ、一言といたします。

藤原委員 この合併も新聞報道等を見ますと、市民には余り歓迎されていないような報道がされておりますけれども、国際水産海洋都市を今後進めるに当たりまして、すばらしいこの自然と水産資源を持っている4町村でございます。これを今後活かすことによって、すばらしい市として生まれ変わり、現在の函館市民に喜んでいただけるような市にしていただければ幸いです。

このたびは本当にいろいろと意見を聞いていただきまして、誠にありがとうございました。

齊藤賢三委員 北海道で初めてこの合併が誕生されまして、12月に発足するわけでございますが、したがって、非常に意義の深い歴史に残る合併が実現されたわけでございます。我々住民サイドといたしましては、この合併の成果というものが強く期待されるわけでございまして、日常の生活を通しまして、そういう実感が肌を感じるような行政が今後推進されますことを、特に行政を運営される担当の皆様方には、これらの点につきまして、万全を期してひとつ対処していただくことをお願い申し上げまして、感想の一言に

かえておきたいと思います。

佐々木範子委員 この合併協議会の法定委員の1人として、皆さんと一緒にこの9回の会議に参加させていただいて、光栄に思っております。

また、住民の一人一人が函館市になることへの期待と、あと半分は不安があります。その不安を社会福祉協議会の監事として、なるべく施設を利用している人が、函館市になったら不便になったと言われたいような、そういうような気持ちでこの会に参加して遂行して見守ってきました。

それで、社会福祉協議会の方の会長さん山鼻さんも何度もおっしゃっていただきましたが、事業が一つも欠くことなくやったださる、地域の人があるんな意味で、ああ、函館市になってよかったと、そういう声が聞こえるようになる、合併後も見つめていきたいと思ひますし、いろいろな意味でこれからも地域の人たちと一緒に歩いていって、函館市になってよかったねという声がたくさん聞けるような、そういうような歩み方をしていきたいと思ひます。

これからも、どうぞよろしくお願ひいたします。

中市委員 あと1カ月足らずで新函館市の誕生を見るということで、今思ひ起こせば、感慨深い思ひと、複雑な思ひが交錯をしております。

どうか、合併後の新市のまちづくりにおいては、この合併協議会で論議をされ、いろいろな協議があったことなどを含めて、十分に尊重していただきまして、後世に平成の大合併、道内第1号は速さだけではなかった、本当にあのとき合併をしてよかったと言われるように念願をしまして、一言コメントにかえたいと思ひます。

どうもありがとうございました。

田中委員 渡島、檜山、この道南でも多くの合併協議会が設立をされて、協議が進んでいるわけですが、これほど1市3町1村の合併がスムーズに進むとは思ひていませんでしたが、ひとえに市長を初めとする各町村の首長、そして今日出席の各委員のご努力のたまものだと思ひております。さらには地域の住民の理解があったからこそ、このようにスムーズに協議会が進んで、合併が完成されたものと思ひております。

さらに、新市に移行される場合には、円滑に、そして円満に市政に移行されることを望みまして、一言ご挨拶といたします。

どうもありがとうございました。

大津委員 全道各地に法定協議会が結成されておりますけれども、その法定協議会もあちこちで解散の話が出ている中でもって、当法定協議会は短期間のうちに協議が終了し、合併を迎えることができたというふうなことは、委員さんを初め、函館市の指導力のたま

ものというふうに感謝しているところでございます。

合併後も細かい作業、詰めが残っているようでございますけれども、新函館市の一体化に向けまして、なお一層のご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

どうもありがとうございました。

熊谷委員 私は、今日9回目の最後の会議を終えるということで、大役を果たした安堵感というのですか、それで今ほっとしている現状でございます。

そしてまた、今回の合併について、私みたいなものでも歴史的な大事な協議の中に参画させていただいた、このことに深く感謝を申し上げたいなと、こんなふうに思っております。

そしてまた、12月1日から函館の市民になるわけでございますので、微力でありますけれども、皆様のご協力をいただきながら、私にできることはお手伝いしていきたいなと、こんなふうにも考えておりますので、どうぞ、ご指導のほどをよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

関根委員 全委員会に参加しました。まずはうれしく思います。

会長から委員会の中で、四つの商工会、合併しろと、この一言が物の見事に脳天をぶち当たりまして、合併に向けて8月1日から協議し、18年の4月1日に合併することに決定しまして、それに向けて作業を進めております。

まずは委員会も全部うまくいったし、商工会の合併もうまくいくように、一生懸命努力している最中でございますので、予算の方だけはできるだけうまく補助金を削らないように、既に何回もお願いしてございますので、よろしく願いします。

樋口委員 この協議会に参加させていただきまして、一言感想を申し上げます。

私みたいな者もこのような大事なところにお席させていただきまして、また意見等も言わせてもらいました。このようにスムーズに合併承認までいくとは、私は思っていませんでした。しかしこのようにいけたということは、やはり委員の一人一人の皆さんがやっぱり合併が必要だという意識があったのではないかと考えております。

私としては、この決まったことに対して責任の重大性を感じております。この責任をこれからも新しい函館市になった場合において、発展するために努力してまいりますので、どうかよろしく願いいたします。

杉林委員 この協議会に私は南茅部の議会を代表して、議長として参加をさせていただきました。これまでの協議会の中でもさまざまな意見を述べさせていただきました。そういう場面では井上会長、そして事務局の方々には大変ご苦労をかけたなと、そんな思いで

いるところでございます。

しかしながら、すべての協議にわたって、函館市あるいは函館市議会には大変ご寛大な対応の中で、等しく我々地域の方の意見も取り入れていただいたと、そういった面では、この場をかりて、本当に厚くお礼を申し上げますところでございます。

実は、たまたま私の家は川汲漁港のすぐそばでございまして、今の時期になりますと大変チ力釣りの方々が大勢見えております。今までは、いや、いや、また函館の人がチ力釣りに来てなどと、ある意味ではちょっと邪魔になったり、そういう感じもしておりました。ところが心持ちというのは不思議なもので、同じ市民になるという思いがあるせいか、いや、今度は函館から来ているという言い方がもうもちろんできないですし、やっぱり気持ちというのがこれも大事なのだと、そんな思いでおりますので、この後もひとつよろしく願いをいたします。

ありがとうございました。

小中委員 助役就任が9月10日でございまして、最初の会議に出ましたけれども、これが最後の協議会ということでございます。

12月1日、南茅部町も函館市となります。そういう面では函館市の地域となりまして、今後考えますと、函館市の1地域といいながらも、やはり函館市であると、そういう面では先ほどどなたかの委員さんがおっしゃいましたけれども、一体感の中でやらなければならないと。ただ私自身が支所の方に残っている勤務もあるようです。そういう意味でいきますと、私はやはり函館市民と一体になりますけれども、南茅部の地域が一生懸命に頑張れる輝く地域づくりというものも、私は微力ながら努力していかなければならないと思っております。

そういう面では、ぜひ皆様のご指導、ご鞭撻をお願いしたいと思います。

星井委員 学識経験というお話しですが、なかなか若輩者でございまして、大したこともお話しできませんけれども、まずは吉澤町長、工藤町長、そして船木村長、それから意思を引き継いでいらっしゃる細井町長、本当に、そしてそれを束ねていらっしゃる井上市長、本当に大変な年月、大変なご苦労があったものと思います。まず皆様のその判断に私は敬意を表したいと思います。ご苦労さまです。それから事務局の方々も本当にご苦労さまでした。大変な作業だったと思います。ご苦労さまでございます。

12月の1日にいよいよ新しく誕生するわけですがけれども、昼間にはその式典も行われますが、夜には12月1日はクリスマスファンタジーというものの点灯式も行われます。その点灯式のプログラムの中にも、この12月1日から一緒になれる新しく誕生を迎える函館市に關しましてイベントも組みたいと考えておるところでございます。

ですから、どうか夜には、クリスマスファンタジーの方にも足を運んでいただければいいかなというPRの1点と、それから皆様にぜひこれはお願いなのですけれども、もちろ

ん融合して同じになることは非常に大切なことではあります、例えば小さなお祭りですとか、多年代にわたるおじいちゃんからお孫さんまで一緒にその祭りに携わるといのはものすごく大切なことだと思います。ですからたとえ町名がなくなって、函館市と一緒にすることがあっても、ぜひその地域に残っているそのような大切なコミュニティーが残っているお祭りを、文化を、伝統をぜひ残していただきたいと思います。それが子供たちにとってはものすごく必要なことであるし、この地域においても、ものすごく必要なことだと思います。それを皆様をお願いしたいと思いますし、私たち青年団体も今にも増して一層努力する所存でございます。

どうもありがとうございました。

渡部委員 感想を述べるという話でありまして、本州などは歴史的にいても、合併がしやすい空気があると思うのですが、北海道の場合は恐らく松前藩しか当時なかったでしょうから、そういう点からいうと、大変な作業だなというふうに思っておりますし、また近隣でもどなたかもおっしゃっていましたが、法定協ができて解散をするという、こういう状況で、私はもともとは市役所の職員出身なものですから、そこに働く職員の皆さん、そして住民の皆さん、大変に複雑な思いだなという点を思うときに、先ほど西尾さんも申しておりましたけれど、私も48年の12月1日、ちょうど31年前、亀田市に奉職している立場でして、函館市に表向きは対等合併ですが、事実上は編入合併と、こういう形になって、しかし30年を過ぎても、全くそういう点でいえば、私の経験からいっても違和感のない状況だろうというふうに思っておりますし、ぜひそういう点でいえば、そういう側面から考えても、この合併は必ず成功していくだろうというふうに思っております。

これは井上市長初め、4町村の首長さんのリーダーシップをもとに、この議会の皆さんの熱い思いが成熟したというふうに思っておりますし、私ども地域の住民団体の一つとして、またいろんな意味で市政執行に向けてご協力を申し上げていきたいということだけ申し上げて、感想にかえたいと思います。

ありがとうございました。

金山委員 現在、私ども5名の教育長、何度か協議を進めておりまして、新しい函館の教育をつくろうと、そういう方向で話を進めているさなかでございます。新しいものをつくるわけですから、かなりエネルギーが必要でありまして、不安とか危惧の中で、もしもこれ議論を進めるとすれば、これはとんでもない落とし穴にはまる可能性がある。教育はもともと明るいものでありますし、また開明なものでありますから、希望の方向をしっかりと押さえながら、じっくりやってみましょうと、こんな考えで今お話し合いをしているさなかでございます。

今後とも皆様方の大きなご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

河合委員 少子高齢化、あるいは過疎化が激しくなる中で、地方分権が進められておりまして、そのために三位一体の改革だとか、あるいは道州制の議論が盛んになってきております。そうすると基礎自治体がどんなふうにあらねばならぬかということが大変重要な課題というふうになっている中で、この5市町村が将来を見据えて、そしてまたそれぞれを互いに思いやりながら議論を進めた結果、こうして合併が成就するところまで来たということに対しまして、深く敬意を表するところでございます。

今、道南もいろんな意味で新しい時代、変わらなければならない時代というものを迎えておりまして、そうした中で新しい函館市がスタートをするということは、そこでリーダーシップを大きく発揮していただけるものというように思っております。

道の立場といたしましても、今回のこの合併につきまして感謝を申し上げますとともに、この函館市の発展に大きく期待をいたしまして、厚くお礼を申し上げますところでございます。

どうもありがとうございます。

会長 最後は副会長さんからコメントをいただきます。

吉澤副会長 今回、5市町村の合併協議が大変スムーズに整ったというふうなことは、皆さんご承知のとおりで、今回編入合併の形式ではありましたが、はっきり申し上げまして、井上市長初め、市議会の皆さん、そして関係者の皆さんが私ども町村側の視点に立った協議を進めていただいたと、そういう結果であろうと、このように私は感謝をしております。これは副会長はみんな同じ考えだったと思っております。

合併後は当然この新しい函館市の1地域としての認識を高めるのはもちろんでございますけれども、新市のさらなる発展に寄与できる地域づくりを微力ではございますが、意を注いでまいりたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

ありがとうございます。

工藤副会長 私、平成14年の6月の2日に首長にならせてもらいました。まさかそのとき、結果として恵山町の名前を消すための首長なるなどということはつゆとも思っていなかったわけでございます。首長にならせていただいた以降、非常に市町村合併の動きが顕著になったわけでございます。

実は、最近地方自治に精通しているある大学の先生がこんなことを申しておりましたのを聞いております。首長はその地域の過去と現在と未来に責任を持っているという言葉に耳にしましたときに、まさしく私はこの2年余りそういうことが実感としてわかり得たのかなというふうに思っております。そういう意味で、この市町村合併は、未来に責任を持

つ立場として、どうしていくかということの一つの今の段階での結果なのだろうというふうに思っております。

今後、函館市となるわけですけれども、これが10年、20年後、合併してよかったというような取り組みを行政の立場としては進めていかなければならないのかなというふうに思っております。

ただ、この法定協議会の中で、特に最初のころに、山鼻委員も含めて、地域を大事にする合併にしていきたいというようなことをおっしゃってありました。私はそのことに非常に意を強くしておりますし、そのことによってこの函館市の発展もまたあるのかなというふうに思っております。微力ながら頑張らせていただきたいというふうに思います。

最後に、事務局の近江局長初め、その日のうちに帰ればいいなというぐらい仕事をしているというふうにも聞いておりました。この場をかりて感謝をしながら、さらにはまた議会議員の皆さん方に感謝をして、ご挨拶にかえさせていただきます。

ありがとうございました。

船木副会長 解散に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げたいと思っております。

昨年9月に設置をされました5市町村での法定協議会が順調に進みまして、本年4月には合併調印式、さらには6月には5市町村の議会での議決、そして10月には道議会の議決も行われまして、函館市との合併まで1カ月を切ることになったわけでございます。

この5市町村合併につきましては、井上函館市長のリーダーシップに改めて感謝を申し上げますとともに、吉澤戸井町長、そして工藤恵山町長、そして南茅部の細井町長を初め、5市町村の合併協議会の委員の皆さん方に心からお礼を申し上げる次第でございます。

また、福島函館市議会議長を初め、5市町村の議会議員の方々、そして関係者の方々に何かとご尽力をいただきましたことを重ねてお礼を申し上げたいと思っております。

合併後は新函館市として、一体性のあるまちづくりができますようにご期待を申し上げますとともに、地域住民が安心して生活できる道南の都市の拠点として、ますます成長されますことを心から祈念申し上げまして、私の挨拶にかえさせていただきます。

ご苦労さまでございました。

細井副会長 合併作業に際しまして、函館市の寛大なる取り組み、そして事務局職員の努力、法定協議会委員皆様のご協力とご理解のもとで、12月1日に函館市と合併を迎えることができました。

我々首長は支所長として残ることになります。どうしても地域重点型の考え方になっていくのではないかと、このように思っております。

4町村は水産を主とした町でございます。建設計画の中にも、海をキーワードとした水産海洋都市の中にこの水産が位置づけられております。それに向かって地域の特性を活かした振興、発展にやはり頑張っていかなければならないのが1点でございます。

それから、2点目は、やはり住民から見ると、サービスの低下につながるだろうとこういう見方もあります。そういう面では、その低下を最小限に食い止めると、こういうふうなことを基本に、将来に禍根を残さない合併でありたいものだ、このように思っております。

今後は函館市民となりますので、皆様のご指導、ご支援をよろしくお願いを申し上げます、一言ご挨拶にかえさせていただきます。

会長 合併協議会の閉会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様におかれましては、昨年9月以来、本日までの長きにわたり、5市町村の合併協議にご尽力を賜り、改めて厚くお礼を申し上げます。

本日をもちまして、当協議会は最後の開催となるわけでございますが、これまでの熱心なご協議、あるいはさまざまご提言を賜り、おかげをもちまして5市町村の合併が見事に成就する運びとなりました。

5市町村の合併につきましては、北海道における平成の大合併の第1号、そしてまた昭和48年に当市が亀田市と合併をして以来の北海道で初めての合併ということでございまして、大きな二つの意義がある、そういった合併でございまして、亀田市との合併からは31年ぶりということでございまして、いろいろな意味で何かと注目をされてきたところでございます。

これまでの合併協議、いろいろなご意見、ご提言がございましたが、極めて順調に進んできたわけでございます。合併後は新たな自治体運営につきまして、その評価という点で今後ますます注目されるものと考えているところでございます。

さて、我々市町村を取り巻く環境につきましては、改めて申し上げるまでもなく大変厳しい状況にあり、さらには国の構造改革、特に地方分権の推進における三位一体の改革に代表されるように、地方の自主・自立に向けた時代の変革期に来ている状況にございます。

市町村にとりましては、なかなか先の読めない時代に置かれているものと認識をいたしており、このような混沌とした状況を地方における変革の要請と、真摯に受けとめ、我々5市町村が合併の取り組みを進めてきたところでございます。

合併後におきましては、自立した自治体として、地域の住民に対する行政サービスを初め、地域の振興を図る上での各種施策の展開が継続可能な体制づくりを目指してまいりたいと考えているところでございます。

これまでもあらゆる場面でお話し申し上げてまいりましたが、合併後の新しい自治体として、その基盤の要となりますのは「海」でございます。当地域が新たな展望のもと、これからのまちづくりを進めていくために、この「海」をキーワードにしながら、水産業の振興、国際水産・海洋都市構想の推進、さらにはスケールの大きい観光都市の形成を図るなど、北海道の中にあって道南を牽引できる中核都市の役割を担ってまいりたいと考えております。

また、新たな自治体として、その主役となりますのは、ここに暮らす住民の皆様でございます。このたびの合併を契機に地域住民の交流をより一層推進し、一体感の醸成を図るとともに、夢と希望にあふれた活力のあるまちづくりを進めてまいり所存でございます。

終わりになりますが、合併後におきましても、さまざまな場面において、当協議会の委員の皆様には引き続き、ご支援、ご協力を賜りたいと考えているところでございますので、この場をおかりをいたしましてお願いを申し上げ、合併協議会の解散に当たりましたのご挨拶とさせていただきます。

本日まで長期間にわたりまして、誠にありがとうございました。

午後 2 時 3 5 分 閉 会